

○そもそも、修行と悟りの体得は一つでないと思っているのは、とりもなおさず仏法以外の教えの見解である。仏法においては、修行と悟りの体得は一にして等しいのである。今も悟りの体得の上に修行するのであるから、仏道修行への初心の精進がそのまま本来体得されている悟りの全体である。そうであるがゆえに、修行の用心を授ける際にも、修行のほかに悟りの体得を期待する思いをもってはならないと教えるのである、本来体得されている悟りを、修行が直接端的に指し示すからである。まさに修行と一体の悟りの体得であるから、悟りの体得に極まりはなく、悟りの体得と一体の修行であるから、修行に始まりはない。

(同上「辨道話(べんどうわ)」)

日蓮のことは

【原文】 広く衆経(しゅきょう)を披(ひら)きたるに、専ら謗法(ほうぼう)を重んず。悲しいかな、皆正法(しょうぼう)の門を出(い)でて深く邪法(じやほう)の獄(いとや)に入(い)る。愚かなり、各(おのおの)悪教(あくけう)の網(か)に懸(か)かりて鎮(とこしへ)に謗教(ほうきょう)の網(か)に纏(まと)はる。この朦霧(もうむ)の迷ひ、彼(か)の盛焰(じょうえん)の底に沈む。あに愁へざらんや、あに苦しからざらんや。汝早

く信仰の寸心を改めて、速(すみや)かに実乗の一善に帰せよ。しかればすなはち三界(さんがい)は皆仏国(ぶつこく)なり。

(『立正安国論』)

【現代語訳】 多くの経典を開き見たところ、(正しい)教えを謗(そし)ることをひたすら重罪とする。悲しいことだ、皆が正しい教えの門を出て誤った教えという獄中深くに入るのは。愚かである、それぞれに悪い教えの網にかかっているのは。現生にたちこめる霧に迷い、後生に燃えさかる(地獄の)焰の底に沈む。(そのことを)どうして愁えずにいられようか、苦しみにいられようか。あなたは早く信仰の心を改めて、速やかに真実の教えであるただ一つの善(『法華経』)に帰依しなさい。そうすれば、生きとし生けるものが生死を送るこの世界は、そのまますべて仏の世界となる。

【原文】 ……釈尊の因行(いんぎょう)・果徳の二法は、妙法蓮華経の五字に具足す。我等この五字を受持(じゅじ)すれば、自然(じねん)に彼(か)の因果の功德(くどく)を譲り与へたまふ。

(『観心本尊抄(かんじんほんぞんしょう)』)

【現代語訳】 ……釈迦仏の成仏の原因となった修行と、成仏の結果として実現された徳の二つは、妙法蓮華経という五字に欠けるところなくそなわっている。われわれがこの五字受持する(信じ受けいれ、片時もゆるがせにせず心に念ずる)なら、おのずから成仏の原因・結果双方の功德(よい性質・はたらき)を(釈迦仏がわれわれに)譲り与えてくださる。